

技術・情報名	温水処理古茶挿木による早期乗園造成法		
実施機関名	三重県農業技術センター畜産部	分類	1

1. 技術・情報の内容

1) 技術・情報の内容及び特徴

従来より行われていた古茶挿木法に温水処理(挿穂を10日間30℃温水に浸漬)を加えることにより根組織及び発根を促し生育と早める。

この古茶挿木により自給乗苗の大量生産と密植乗園の速成が図れる。作業手順は、3月中下旬春切り伐採した古茶を基部より3芽(約15cm)おのの穂木に小型電動鋸で切断する。

切断した穂木を10本単位で東根発根促進剤(オキシベロン60倍液)に1昼夜浸漬後温水処理槽に移し基部3cm程度を10日間温水(30℃)に浸漬し発根促進とする。

この槽内の温水はハンディポンプにより循環させ酸素の補給を促す。

あらかじめ整地した圃場にビニールマルチ(厚さ0.02mm透明)し等間隔に挿穴をあけて挿木する。(3,000~5,000本/10a)

2) 技術・情報の適用効果

底茶利用による自給乗苗の大量生産ができる。

普通乗苗での育成期間(実生1年、育苗1年)を短縮することができる。即、密植乗園の造成及び育成につながる。

3) 普及・利用上の留意点

春切り古茶を貯蔵するについては乾燥防止のため貯蔵庫等を利用すること。また温水処理後の穂木は速やかに定植すること。即定植不可の場合は乾燥防止に留意すること。

挿木の際 マルチしたビニールが挿穂の底部に付着しないよう留意すること

2. 具体的データ(図・表)

第1表 穂木の処理

番号	穂木調整時期	温水処理本数	温水処理時期
1	4月9日	13,500本	4月10~20日
2	4月20日	12,100	4月21~31日
3	5月6日	13,500	5月7~17日
計(平均)		39,100	

(注) 古茶の採取は
平成1年3月10日

第2表 現地圃場における実用性 (平成1年10月10~13日調査)

(1) 活着調査

圃場名	地域	面積	植付月日	植付本数	10a当り本数	活着率
1	北勢	5 ^a	5月1日	1,500本	3,000本	82%
2	中勢	10	5月19日	3,600	3,600	78
3	南勢	10	4月20日	5,000	5,000	84
4	"	12	4月21日	6,200	5,167	88
計(平均)		37		16,300	(4,532)	(83)

(2) 伸長及び茶葉収量

圃場名	伸長調査	10本当り 茶葉収量	正葉量	10a当り 換算収量
1	214cm	4.1kg	70%	1,009kg
2	211	3.8	71	1,067
3	198	2.7	66	1,134
4	198	3.7	62	1,682
計(平均)	(206)	(3.6)	(67)	(1,223)

(注) 現地実用性の検討に供用した穂木は第1表の育成苗木を使用した。

3. その他特記事項

研究期間: 昭和60年~平成2年 予算区分: 県単

研究課題名: 温水処理による古茶挿木法に関する試験

研究担当者名: 三重県農業技術センター畜産部 大辻英敏